

大学に入るまでに、大学のうちに、 身につけておくべき力、「食」



1、高校生へ！大学入って何しよう！

最近、高校生の前で話をする機会を多く頂く。そこではよく、こんな話をする。

大学では、遅刻しても授業をさぼっても怒られない。そう聞いて「うわ！いいな！」と思つた君はかなりの幸せ者だ。

大学は冷たい。

面白くない授業も多い。大学教員は、講義の方法よりも研究成果で勝負しているのだ。最近では学生による授業評価も行われるようになったが、教員の業績評価

三四万年の堆積層が目の目を見ることとなった。こうして昭和基地南方の大陸内陸部は科学的認識が可能な自然となったのである。

文献

- 1、西堀栄三郎、一九五八、『南極越冬記』、岩波新書、岩波書店、289p
- 2、村山雅美、一九六三、『南極点への道』、朝日新聞社、381p
- 3、村山雅美、二〇〇五、『地の果てに挑む』東京新聞社、155p
- 4、渡辺興亜他、二〇〇二、『南極氷床の水を掘る！』、極地選書2、国立極地研究所、288p

(国立極地研究所名誉教授・北大・理・昭40)

佐 藤 剛 史

の中心は研究である。先生方はいう。「面白く聞けるかどうかが大切なのだ」。

情け容赦なく単位は落とされる。

不登校になろうが、ひきこもろうが、先生はあまり心配しない。家庭訪問になんか来てはくれない。

真面目な君は、もつとビックリすると思うけど、テストで、いくらいい点を取ろうが、クラスで一番になろうが、先生も友達も誰も褒めてはくれない。

高校では、先生は、君たちのやる気を出させるために必死だけど、大学ではやる気のある学生しか相手にしない。

ね、大学は冷たい。だって、大学での勉強は自分のためのものだからだ。教えられるのではなく、自ら学ぶものだからだ。だから誰も怒ってくれないし、誰も褒めてくれない。

大学一年生に聞いてみた。大学に入ってよかったと思うことは？

「親を心配させずにすんだ」。心優しい回答だけど、それ以上はない。

大学に入って期待はずれだったことは？

「建物が古い」。「トイレが汚い。学食がまずい。教える方が下手な先生が多い」。全部正解。でも、君の大学生生活の充実度はそれで決まるの？

大学にいるうちに必ずやりたいことは？

「バイト」。この答えは多い。じゃあ、稼いだカネで何をするの、と問うと答えに困る。

「大学って何もしなければ、何もないトコなんですね」。大学に入ったばかりの一年生の言葉だ。

こんな話を聞くと暗い気持ちになってしまうかもしれないけど、大学はすごくあたたかい場所でもある。例えば、高校一年生が三年生の授業に潜り込んだりしたら、すごく怒られるだろうけど、大学では何も言われない。もしかしたらやる気を認めてもらえるかも。

先生よりすばらしい研究をして、すばらしい論文を

書く学生もいる。

会社を作ってお父さんより稼いでる大学生もいるし、本を書いてその本がベストセラーになった学生もいる。スマイルを探しに世界を旅する学生もいるし、ボランティアに明け暮れ「人のhappyが僕のhappy」なんて悟りをひらきつつある学生もいる。

大学は自由だ。冷たいくらいに自由で、やる気のあ

る学生にはとてもあたたかい。

そんな大学で充実した生活を送る自信はある？

じゃあ、大学に入るまでに何をしておくべきか。

私はこう考えている。大学に入って何をしたいのか考えておくこと。何のために大学に行くのか考えておくこと。大学でしかできないことは何かを考えておくこと。自ら学ぶ力を身につけておくこと。

大学では、そんなこと自体、教えてくれない。だから大学に入る前に是非、考えておいてほしい。

2、高校生、そして大学生へ「台所に立とう」

大学に入る前に考えておくべきこと、身につけておくべきことのもう一つは、家事の力だ。

「大学生の食の実態」に関するアンケートを実施した。回収中であるが、現在(二〇〇七年七月一七日)までに、福岡県にある、いくつかの大学の大学生から二

四二票の回答を得た。

一割の大学生が、大学に入って以降ご飯を炊いたことがない。五割の学生が、大学に入ってみそ汁を作ったことがない。六割強の学生が、大学に入って以降魚料理をしたことがない。そうすると、「朝ご飯を食べない」「お菓子と清涼飲料水でお腹一杯」「毎日の夕食を外食やコンビニに頼る」ようになる。

そんな学生に、勉強にも、サークル活動にも、恋愛にも、すべてに真剣に取り組めるほどのバイタリテイがなさそうなことは、容易に想像がつく。

しかし仕方がない。自分の健康やhappyのために献立を考え、食材を選び、それを料理し、おいしく食べる技術がないからだ。大学に入るまでにそんな食の力を身につけてこなかったからだ。上述のアンケート

によれば、高校の時に、「よく家事手伝いをしていた」学生はわずか一割だ。

「大学に入れば、一人暮らしをすれば、そんな力は勝手に身につく」なんてことは決してない。上述のように、大学ではそんなことは教えない。それを習得する意志と時間を作るのも難しい。大学生生活は忙しいし、いろんな誘惑に溢れているのだ。

だから、大学に入る前に是非、家事の力、食の力を身につけてほしい。大学の教員として、高校生に「勉強の時間を減らしてでも家事手伝いをしよう」とはなかなか言いにくい(本当は言いたい)。だから勉強+アルファの時間を作り、しっかりと家事手伝いもしよう。そんな学生は絶対に大学で伸びる。社会に出ても、もっと伸びる。

アジア文化会館と穂積五一

穂積五一先生追悼記念出版委員会編著

財団法人アジア学生文化協会の創設者 穂積五一(一九〇二—二〇一〇)の生涯を描く。同協会小木曾友理事長の学士会夕食会での講演会、「穂積五一とアジア文化会館」は、本誌(2006・V号 十八年九月一日発行)に掲載された。第一部は穂積と交流した各国の留学生らによる穂積像の紹介、第二部は生い立ちから戦時の体験を経て、会館建設に至る人間形成が描かれる。

●影書房 四六判・並製・六〇〇頁

●定価五〇〇〇円(税別)

財団法人アジア学生文化協会
東京都文京区本駒込2-12-13
アジア文化会館
Tel.03-3946-4121
Fax.03-3946-7599
E-mail asca@abk.or.jp
http://www.abk.or.jp

私はよく大学生にこんな話をする。「君たちは将来、絶対に社会のリーダー的役割を担うことになる。会社、その中の部署、地域社会、いつかは大きな組織をマネジメントしなければならない日がある。しかし、自らをマネジメントできない人間が、組織をマネジメントできるだろうか。組織をマネジメントしようと思えば、まずセルフ・マネジメントからだ。ではセルフ・マネジメントとは何か。それは、時間のマネジメントと食のマネジメントだと思う。」

さらに、クリエイティブな仕事に必要な力を養うには、料理ほど格好の教材はない。

アイデア力。「アイデアとは、これまでのアイデアの組み合わせでしかない。その数は、これまでのアイデア、経験に応じて、倍々となっていく。例えば二つの味、二つの食材しか知らなければ、その組み合わせは四。三つの味、三つの食材なら、九。その九がそれぞれの味になるから……。料理で、アイデア力、つまりアイデアの組み合わせ力が鍛えられる。

段取り力。洗って、切って、炒めて、盛りつけて。それだけでもたいへんなプロセスである。しかも、限られたガス

コンロ。限られた調理道具。それで、すべての料理を暖かいまま食卓に並べる。しかも、そのときに使った調理道具、キッチンがピカピカなら完璧だ。料理には相当な段取り力が要求される。料理で、段取り力が鍛えられる。

イメージ力。この食材を組み合わせてどんな味になるか。見た目がどうなるか。どんな調味料を使えば、それが最大限に引き立つか。どう盛りつければ美しく、食欲をそそるか。それは経験や技術も大きい。完成図をイメージできる力、イメージ力が大切だ。繰り返す。クリエイティブな仕事に必要な力を養うには、料理ほど格好の教材はない。

3、大学教員として「弁当の日」がはじまった

こうしたことを理念的に語るのは易しい。大切なのは行動だ。

小さな一歩ではあるが、私は、九大の学生と「弁当の日」をはじめた。学生の多くは、昼食に生協食堂を利用したり、生協弁当を買って食べる。しかし、あえて自分で弁当を作つてこようという弁当の日。

一週間に一度、学生、教員が、弁当を作つてきて持ち寄る。一人一品持ちより形式。皆が皆のために作り、

皆で食べる。教員が学生のために弁当を作る。学生が作った弁当を私もおいしく頂く。弁当の日には、学科、学部、学年を超え二〇名の学生が参加している。

弁当の日の力を象徴するエピソードがある。弁当の日、初日の前夜。学生達と居酒屋で酒を酌み交わしていた。ある学生が、ふと思ひ出し、「どうしよう！明日は弁当の日だった！」「やば！買い出ししてなかった」「冷蔵庫に何も無い……」「スーパーももう開いてない！」

いろんなおかずを作る食材はないけど一品ならなんとかなるはず、ということで一人一品持ちより形式が提案され、スタートした。私は、「お米が切れている」という学生のために、ご飯も炊いて持つていく約束をした。そのときは、お米を三合くらい炊いて、タッパ

ーに詰めて持つていけばいい、くらいの考えだった。翌朝、私は一品として卵焼きを作った。そしてご飯が炊きあがり、タッパに手を伸ばした瞬間、ふと「おにぎりにしたほうが食べやすいし、弁当っぽいな。学生も喜ぶだろう」と思ってしまった。そうして、おにぎりを握りはじめる。白おにぎりを一つ握つたところで「梅干しが入っていた方が喜ぶだろう」と思ってしまった。星野村の絶品梅干しを冷蔵庫から取り出す。梅干し入りおにぎりを三つほど握つたところで「梅干しばかりじゃ飽きるかな。酸っぱいのが苦手な学生もあるかも」と思い、オカカ入りおにぎりまで作り始める。結局、炊きたてご飯にもんどり打ちながら、梅干し入り、オカカ入りのおにぎりを八個も握りあげる。そんな自分をふと顧みて、弁当の日のスゴサを実感した。

南高梅のふるさと
みなべ町の梅干

大澤農園の梅干は、徳用つふれ梅を除く全商品が、A級梅をベースにした昔ながらの梅干です。

梅、しそ、塩以外に食品添加物を含んでおりません。

あと口もさわやかな、安心して召し上がって頂ける健康食品です。

詳しくは、会報五月号又は、十一月号の広告を御参照下さい。

〒646-0035
和歌山県田辺市中園町56

大澤農園

TEL 0739-22-1508
FAX 0739-22-1640

大澤 潤 三

専士会員(派)第31期第3号

私は、本気で学生の一生のハッピーを考えたいと心がけている。しかし、おにぎりを握っているときほど、やさしい気持ちになったことはない。つい、「おにぎりにしてやろう」「梅干しを入れてやろう」「オカカ入りも作ってやろう」と、思ってしまうのだ。心から「そうすれば学生が喜ぶだろう」と、思ってしまうのだ。

それは教員の学生に対する優しさを超えた、人と人、一対一の人間同士の優しさに近い気がする。教員と学生という立場を超え、人に喜んでほしいという、私自身の本源的なハッピーに触れたような気がするのだ。

現在、この弁当の日の取り組みは、福岡教育大学、西南女学院大学短期学部、西南大学、と福岡のいくつかの大学へ広がりがつつある。

二〇〇七年四月二二日、「大学生による大学生のための食育ワークショップ」が実施された。九州各地の一〇〇の大学から、八〇人をこす大学生が、勉強もバイトもテントもそつちのけて集まった。とびつきり温かいハートと弁当を片手に。

参加した大学生はその場で、誰かが喜んで食べてくれる幸せ、誰かが褒めてくれる嬉しさ、皆で食べる楽しさ、食べれば元気になること、それらを実感した。そして、親に対する感謝、食べ物に対する感謝が生まれた。

「子どもは親が育ててくれたように、子どもを育てることが多いと思うけど、親のようになりたいと思えるのは、幸せなことなんだと思いました」(一九歳、九州大学女子学生)。

「大切なお母さん、お父さんに伝えたい今日学んだこと。愛情いっぱい育ててくれたんだとあらためて感じました。今日、参加したことで、食の大切さを強く感じました。今度、家に帰ったら、私が料理して、お父さんにはお弁当を作ります」(二〇歳、福岡教育大学女子学生)。

こうしたことは、大学教員がやる必要のないことかもしれない。もう少し、専門性を深め、論文を一本でも多く書けばいいのかもしれない。

しかし、大学は社会に出る前の最後の塾だ。今、食を伝えなければ。社会に出れば、そうしたトレーニングの場はもつと失われ、そして彼、彼女らはすぐに親になる。

学生の一生のハッピーを考え、私は今日も弁当を作り、「弁当の日」に参加する。

(九州大学大学院農学研究院助教・九大・農博・平13)

マスタープランから見た景観

— 東京大学本郷キャンパスの景観について(6) —



三 船 康 道

東京大学本郷キャンパスの景観問題を連載している中で、意見やアドバイスが寄せられている。今回は寄せられたアドバイスの中からキャンパスのマスタープランについて取り上げさせていただきたい。前号ではマスタープランの一部について触れた。しかし、今回は本郷キャンパス全体のマスタープランについて触れながら景観問題を考察させていただきたい。

なお、今回参照する資料は、前号同様、東京大学のホームページ (http://www.u-tokyo.ac.jp/fac02/02/hong2_000.pdf) に「本郷地区キャンパス再開発利用計画要綱」(本稿では以後これをマスタープランと呼ぶ)と

いうPDFファイルが掲載されている。これには、平成四年の東京大学キャンパス計画の概要を元に作成されたもので平成五年六月八日に評議会の承認を得たものと、改正案を平成一五年三月一八日に評議会が承認したものが含まれている。

また前号では、福武ホールのデザインに関する要望書の提出について触れた。今回はその後の動きについて触れさせていただきたい。

そして、他大学の方から同様の問題があり参考になるという意見も寄せられている。現在、歴史的景観は旧帝大に共通するテーマになっているようである。